

JELA NEWS

ジェラ ニュース 第35号 2014年12月15日発行 発行責任者 森川 博己

一般社団法人日本福音ルーテル社団 〒150-0013 東京都渋谷区恵比寿1-20-26 Tel.03-3447-1521 Fax.03-3447-1523 jela@jela.or.jp www.jela.or.jp

難民支援／世界の子ども支援／ボランティア派遣／リラ・プレカリア(祈りのたて琴)研修講座／奨学金制度／宣教師支援

私たちは、キリストの愛をもって、日本と世界の助けを必要とする人びとに仕えます

「お前たちはわたしが飢えていたときに食べさせ、のどが乾いていたときに飲ませ、旅をしていたときに宿を貸し、裸のときに着せ、病気のときに見舞い、牢にいたときに訪ねてくれたからだ。はつきり言うておく。私の兄弟であるこの最も小さい者の一人にしたのは、私にしてくれたことなのである。」 マタイによる福音書 25章35節～36節40節



JELA グループ・ワークキャンプ(アメリカ)今年も参加

今夏もアメリカのグループ・ワークキャンプに日本から青少年を派遣しました。十代の若者3名とスタッフ2名が米国の200名の青少年といっしょに家屋修繕ボランティアを行いました。詳しくは2ページ以下をご覧ください。

【この号にはこんな記事が】

グループ・ワークキャンプ参加者報告、2015年米国ワークキャンプ参加者募集 ……2～3 国際交流奨学金「模範的パートナーシップが築いた12年」(遠藤抱一)、世界の子ども支援「インドの少女 Shiuli の喜び」、「インドの JELA 支援地でも喜ばれているパナソニックのソーラーランタン」、JELA 職員募集 ……4～5 大学生が福音に触れるリラ・プレカリアのセミナー ……6 難民支援「収容代替措置とジェラハウス」(石川美絵子) 他 ……7 新しいJ3、第2回川柳ひろば入選作発表、支援者一覧 ……8



グループ・ワークキャンプとは

1977 年、コロラド州を襲った大洪水の被災者を支援するために、米国のキリスト教青年書専門出版社「グループ」がボランティアを募り、全米から集まった 300 人により始まりました。昼は貧困地区の家屋修繕、夜は賛美集会で構成されています。毎年、全米・カナダおよびその周辺国の 50 以上の地域で開催されており、さまざまなキリスト教会・教派の青年や未信徒が全部で数万人参加しています。JELA は 2001 年から現在までに 100 人以上の日本人青年たちを派遣してきました。

今年は青年 3 名が、7 月 25 日から 8 月 6 日までペンシルバニア州フィリップスバーグ市で行われたキャンプに参加しました。キャンプ前後のホームステイは、元在日短期宣教師マラー・ウッド姉のいるメシア・ルーテル教会（オハイオ州クリーブランド市）にお世話になりました。日本人参加者は教会で交流の機会を持ちながら、ホスト・ファミリーと楽しいひとときを過ごしました。

キャンプでは、全米から集まった 200 人の青年たちと共に、「イエスさまが私たちの心を『Repair』（修復）してくださることによって、いかに自分が『Transform』（変革）されるか」を考え、賛美や分かち合いの時間を持ちつつ、奉仕を行いました。この一週間のキャンプで 200 人が協力して 31 棟の家屋を修繕することができました。

当たり前が当たり前でなくなりました

天下怜未

日本キリスト教団聖ヶ丘教会・14 歳



私は生まれてからの 14 年間、自分の与えられている環境に感謝したことなど一度もありませんでした。むしろ、当たり前だと思って今まで生活してきました。しかし、この JELA のワークキャンプを通して、当たり前ではないんだということに気づきました。そして、神様によって生かされてることを実感しました。

私がホームステイした先の Ratvasky 一家には、私と同じ 14 歳の女の子がいます。Sophie といいます。馬が大好きで、小さい子や障害を持つ子どもたちに乗馬を教えているそうです。そんな優しい Sophie を見て、素直にすてきだなと思ったし、私も人を笑顔にさせたいと心から思いました。また、Sophie は私たちのために、わざわざ朝早く起きてパンケーキを作ってくれました。同い年の Sophie が私のためにそんなことまでしてくれているのに、毎日母が食事を作ってくれることを当たり前だと思っていた自分が恥ずかしくなりました。なので、今後は毎日 3 食、母に食事を作ってもらっていることに日々感謝して食事をいただきます。

おおぜいの若いクリスチャンにワクワク

室原牧人

ルーテル健軍教会・17 歳



ワークキャンプ当日は同じ年代の人たちでこんなにたくさんクリスチャンがいたことに驚き、ワクワクしました。最初、修繕作業グループで集まっているいろいろと話し合いましたが、英語が全く分からず質問に答えることもできませんでした。しかしみんなは、僕が分からないときは言葉を変えてみたり、ゆっくり話してみたりと、初対面なのにとても優しく接してくれて、うれしかったです。

次の日から直す家に行って修繕作業をしました。とても大変でしたが、グループみんなと楽しくできました。昼食時はこのグループで聖書について分かち合いました。分からないことがあったけど、少しずつ理解しながら会話できました。アメリカのティーンズの人たちは聖書についてとても深く考えていることが分かったので、とても勉強になりました。

夜のプログラムでは、その日のテーマについてみんなで話し合いました。最初の夜プロのテーマは「男の子と弁当」についてでした。イエス様が男の子の持っていた弁当を 5 千人に分け与えて全員が満腹になったという話でした。独り占めせず分け与えることで幸せになれるんだと学びました。

たくさん学びました

大塚仁京

ルーテル福岡西教会・17 歳



キャンプでは「Repair」（修復）がテー

マで、悪い人が良い人になるような話が多くて、昨年の春キャンプも「罪」についての話があって似ているところもあり、たくさん学ぶことができました。どんな罪人でも神様は恵みを与えてくださり、私たちの心も体も癒し修復してくださいます。自分もなかなか教会に行けてないので神様から遠ざかってるかなあと感じていたけど、それでも神様は自分を愛してくれるということを学び、これでも大丈夫なのかなあと思いました。教会には行けなくても家でお祈りをしたり、聖書を読んだりしたいと思います。

家の修繕の仕事では、ペンキを塗ったり木を切ったりと、初めてだったのであまり上手にはできなかったけど、住んでいる人たちに喜んでもらったのでうれしかったです。人のために何かすることはいいなあと改めて実感しました。居住している人には、お昼を作ってもらったり、いろいろな話ができ良かったです。子どもともたくさん遊べて楽しかったです。お別れのときにお土産をもらって本当にうれしかったです。お別れはさみしかったです、またいつか会いたいと思いました。

神様の御言葉と信仰を伝えるキャンプ

関川美樹

日本キリスト教団自由が丘教会伝道師



私は今回のキャンプに10年ぶりに参加しました。チャプレンとしての参加で、高校生のときとは違い責任が大きかったです。しかし、それだけこのキャンプに対する見方も変わっていました。

このキャンプが本当に大切にしていること、それは青年たちに神様の御言葉、信仰を伝えることだということを実感しました。私はチャプレンとして伝える側ですが、13日間を通して、私のほうが神様の恵みに触れ、聖句を深く聴くことができました。ホストファミリーとの食事のと

き、ホストチャーチのメシア・ルーテル教会の二度の礼拝、ワークキャンプで毎日行われたディボーション、さまざまな出会いと祈りの場を通して、神様が語りかけてくださいました。三人の青年たちも、もう一度教会へ行こうと思ったり、日本でもアメリカでも同じ神様の大きな愛を感じたと言っていたのが印象的でした。

このキャンプのテーマ、「修復、変革のストーリーになる」。このテーマに沿ったさまざまな聖句を聴きました。キャンプ期間中にはさまざまなプログラムがあ

2015 米国グループ・ワークキャンプ参加者募集

以下の要領で2015年グループ・ワークキャンプの参加者を5～10名前後募集します。申込期限は2015年4月末日(必着)です。

◆ 派遣期間:2015年7月23日(木)～8月5日(水)

◆ 内 容:ニューヨーク州(またはその近辺の州)でのホームステイとワークキャンプ(家屋修繕、聖書の学び等を通して信仰的・人間的成長を促すプログラム)に参加。

◆ 参加費用:20万円 *値下げしました。
パスポート・ビザ取得費用、海外旅行保険費用、派遣確定者説明会会場及び出発・帰国時の集合場所(成田空港)から居住地までの交通費や、前泊・後泊する場合の宿泊費用については、上記の参加費とは別に個人負担となります。

◆ 問合せ・申込用紙請求先:
JELAグループ・ワークキャンプ係(窓口:星崎、奈良部)

住 所:150-0013 渋谷区恵比寿1-20-26 日本福音ルーテル社団(又はJELA)

電話:03-3447-1521

ファクス:03-3447-1523

メール:jela@jela.or.jp

※応募・申込書類は、JELAホームページ(www.jela.or.jp)からもダウンロードできます。

◆ 選抜方法:2015年4月末日(厳守)までに到着した申込書の中から派遣者を決定し、5月上旬までに結果を申込者

に連絡します。
りましたが、一つ一つ体験するなかで、一貫してこの「修復、変革」というテーマが確実に流れていました。青年たちと共に、神様が私たちをどのように変えてくださるか、時には自分の痛みや傷を神様に差し出したり、仲間と共有したりしながら、神様の自分に対する奇跡を考えさせられました。

アメリカという国で、私たちが信じる神様の恵みを外国の方々と共に経験する、それはとても良い経験でした、この時を神様が与えてくださったことに感謝しています。

に連絡します。

<注意事項>

! 2015年8月1日現在の年齢が14～20歳の健康に自信のある方が応募できます。

” クリスマンでなくても参加できますが、聖書を学び話し合う時間が毎日あり、すべての行事に積極的に加わることが求められます。

日本人スタッフが同行し、霊的・言語的側面から日本人参加者を支えます。

\$ 派遣確定通知受領から出発までの間にキャンセルされる場合は、その時点までに発生した費用をいただくことがあります。また、新型インフルエンザの蔓延等、諸事情により日本からの派遣を中止する場合があります。JELAからキャンセルする場合は、払込み済みの参加費はご返却します。

% 渡 航には(航空券予約段階から)パスポートが必要となりますので、お持ちでない方、更新が必要な方は、派遣確定通知受領後速やかに取得手続きを行ってください。



模範的パートナーシップが築いた12年

アジア学院 副理事長 遠藤抱一

日本福音ルーテル社団(JELA)からアジア学院(ARI) 学生への奨学金支給は、2003年に始まりました。最初のティゴール牧師から今年のエウニケさんまで、この12年間に4か国から16名がJELAのご支援により、ARIで9か月間の農村開発指導者研修を受けることが出来ました。そのうちカンボジアとブラジルからの4名はJELA推薦の学生をARIが受け入れ、インドネシアとインドからの12名はARIがJELAに推薦する、パートナーシップ事業を実現してきました。

今日までに主に都内の14教会でJELA奨学生を、日曜礼拝の説教、メッセージ、交流会などに受け入れていただき、JELAの働き的一端とARIの事業内容の紹介に努めてまいりました。特に保谷教会では2003年以来12年間にわたり、JELA奨学生およびELCA(米国福音ルーテル教会)奨学生の計18名が招かれ、交流を培いました。

卒業生たちは、教会が直接間接に関わる農村開発事業で、農民の健康と自然環境を守りながら有機農業による農村開発事業の指導に従事しています。途上国農村の教会では、信徒である農民の生活水準の向上は、物心両面で避けて通れない課題であり、そのため少なからぬ教会指導者が農業指導に直接あたっており、特にインドネシア北スマトラからの学生の9名がルーテル教会関係者で、そのうち牧師は7名を数えます。

ARIはキリスト教を教育の基本とする日本キリスト教団関係学校として毎年30名前後の学生を約15か国から受け入れ、国内のみならず世界中のキリスト教会とその関係者の支援と協力を主たる原動力としており、その最も模範的なパートナーシップがJELAとの連帯だと考えております。このパートナーシップに基づき養成された学生は、途上国の農村において、人々に明日への希

望を与え続けており、このことはJELAのご理解と支援なしには実現出来なかったことであり、心より感謝申し上げますとともに、なお一層の連帯を強めていきたいと願っております。

●年度別のJELAからの奨学生の出身国と活動内容

- | | |
|--------|--|
| 2003年度 | ティゴール・シホンビン
(インドネシア、牧師) |
| 2004年度 | ジェイエツシュ・S.カンバーレ
(インド、農業指導) |
| 2005年度 | フェニー・J.タンポロン
(インドネシア、牧師)
ビベカ・N.ビスワル
(インド、LWS事業担当) |
| 2006年度 | オステン・J.マトンダン
(インドネシア、牧師) |

ビスナ・オウク

(カンボジア、LWS農業指導)

- | | |
|--------|--|
| 2007年度 | バハ・シホンビン
(インドネシア、牧師)
エミー・ラスマリエ
(インドネシア、孤児院農場指導) |
| 2008年度 | ガニ・シラバン
(インドネシア、コーヒー生産者協同組合) |
| 2009年度 | フーゴ・D. G. ナンシン
(インドネシア、牧師) |
| 2010年度 | ルチネイ・L. テレス
(ブラジル、農業指導)
レイナード・シレガ
(インドネシア、牧師) |
| 2011年度 | リリン・S. ゼンドラトウ
(インドネシア、牧師) |
| 2012年度 | ジョエルマ・G. D. ケイロス
(ブラジル、農業指導) |
| 2013年度 | マテウス・J. コンラト
(ブラジル、農業指導) |
| 2014年度 | エウニケ・W. ワルダニ
(インドネシア、農村開発) |



鶏舎



2012年JELA奨学生ジョエルマさん



農業研修棟



卒業式



2014年度JELA奨学生エウニケさんと遠藤副理事長

JELA 職員募集

募集職種:一般事務/募集人数:1名/雇用形態:正職員(入社後3か月間は試用期間)/勤務地:ジェラ・ミッションセンター(東京都渋谷区恵比寿1-20-26)/待遇:給与・賞与・手当=当社規定による/勤務時間=9:00~17:00/完全週休二日制/各種社会保険あり/応募条件:高校卒業以上・英語力がある方(業務により海外出張あり)・パソコン基本ソフトが使いこなせること/応募書類提出期限:2015年2月15日(当日必着)
その他詳しくはJELAホームページで <http://www.jela.or.jp>



「私はこの家の初めての子なの。Shiuli という名前をつけてくれたのはお母さんだって、おばあちゃんが言った。オレンジの茎に咲く小さな白い花という意味なんだって。お母さんはその花が大好きなの。きっと、この花のようにきれいに咲く人になってほしいと思ったんだわ」と笑顔で話す Shiuli は 14 歳です。

Shiuli は、インド・コルカタのウダヤンポリ地区にあるスラム街に住んでいます。ウダヤンポリは、JELA が支援している LWSIT(レーテル世界連盟に連なる、インドにある NGO) が 2007 年から支援している地域です。LWSIT がここに学習センターを設立し、現地の自助グループが運営に携わっています。センターでは 20 人ほどの小中学生が放課後に集まり、宿題を見てもらっています。

Shiuli はバングラデシュの出身です。彼女が 4 歳の時に父親は家族を捨ててどこかに行ってしまいました。残されたのは病気の母親、祖母、二人の弟、そして Shiuli

です。一家は極貧となり、10 年前に国境を勝手に超えてインドに移り住みました。「インドに行けば生活が楽になる、食べ物もある、とお母さんとおばあちゃんが言ったの」。インドに来た Shiuli 一家は、ウダヤンポリに住む親戚の小屋に置ってもらったそうです。

「お母さんはテンカンなんだけど、インドに来てそれがもっと悪くなって、仕事は見つからないし、日雇い労働もだめで。弟の一人がまだ赤ん坊で、お母さんが自分のお乳をやる必要もあったし。とにかく、お母さんはぜんぜん働けなかったの」。そして、「みんなが食べていくために、おばあちゃんが頑張ったの。雑用で稼ぎながら、そのうち、工事現場の日雇い労働者になれたわ」と Shiuli は続けました。

祖母の月給は 2500 ～ 3500 ルピー (4500 ～ 6000 円。* インド人の平均月収は約 1 万円)。Shiuli は、ある国営の学校に通いました。インドの国営学校では給食が出るので午後はお腹がすかないだろう、と母親が考えたからです。

数年前に母親の容体が悪化し、Shiuli は学校を休まざるを得なくなりました。母親の介護や家事手伝い(水を汲んでくることや、料理を作ったり部屋の掃除をすること)は彼女の仕事だったからです。「暇ができたとき学校に行ってみただけど、たくさん休んでから授業についていけないし、テストもできないし……。恥ずかしくて、やめてしまったの」。そう語りながらも Shiuli は悲しそうでした。

「ある日、近所に住む一人のおばさんが家にやって来て、私とお母さんに言ったの。自分は学習センターで教えている、ここでは、私のような子どもが授業についていけるように教えてくれたり、宿題を見てくれるって。はじめはどうしようかと思ったんだけど、友達が通ってるのを見て、センターに行くことにしたの。今は年より二つ下のレベルで勉強してるわ」と恥じらいながらもうれしそうな Shiuli です。

「センターの先生たちのおかげで宿題ができて、学校にもまた通うことができてうれしい! でも、本当は一番うれしいのはね、給食があるからお腹がすかないことかな」。そう言う Shiuli の姿は、センターで育まれながらきれいに咲く、小さな花のようです。

.....

この学習センターの運営には、皆様から頂戴する、アジア子ども支援の寄付金がいわれています、センターには現在、男の子 8 人と女の子 12 人が通っています。このセンターがなければ、子どもたちはどんな人生を送っていることでしょうか。皆様のご支援で少しでも、Shiuli のような子どもたちを支援できればと思っていますので、よろしく願います。



インドの JELA 支援地でも喜ばれている パナソニックのソーラーランタン

2014 年 3 月に JELA はパナソニック株式会社からソーラーランタン 250 個をインド・コルカタの支援先である LWSIT に寄贈していただきました。以下は、このランタンを利用している一人の女性の生活の様子です。



ジュリ・ベヘラさんは耳が聞こえず言葉も話せません。家族から大事にされず、縁を切られる形で姉と一緒にコルカタのブハネスワールにあるスラム街に移り住みました。姉も、自分の娘ともども夫に捨てられて、ジュリさんと暮らすようになったのです。彼女たちは近所で家事手伝いをしながら生計を立てています。

ジュリさんは LWSIT が支援に力を入れている、カストゥラバ・マヒラ・サミティという、現在居住している地域の人々を中心とした組織の一員です。

耳が聞こえないので家事をこなすことが難しいジュリさんですが、暗がりでも料理をしたり字を読んだりすることにも困難をおぼえていました。家には電気が通っていないからです。こんな不便な暮

らしをしていたところにソーラーランタンが届きました。どんなにうれしかったことでしょう。言葉が話せないので、ジェスチャーで感謝の気持ちを表現したそうです。

読書や家の仕事をする際にランタンを使用することで、暮らしがとても楽になったようです。小さくて軽いので、夜間に外出するときも持ち歩けます。多くの場面で役立ち、さまざまな事ができるようになりました。以前は自分の居場所を示せず危険だったのに、このランタンのおかげで今は夜も大丈夫です。

パナソニックのランタンは自分自身の生活を明るくしただけでなく、周囲の環境の改善にもつながったと彼女は感じています。

大学生が福音に触れる リラ・プレカリアのセミナー

6月5日に関西学院大学商学部の「キリスト教学」という講座の中で学生 250 名に対してリラ・プレカリアを紹介させていただく機会が与えられました。招いてくださった山本俊正先生（関西学院大学商学部教授・宗教主事）はこの特別セミナーの目的を次のように説明しておられます。

「リラ・プレカリアの働きを学生たちに紹介したかった理由は、音楽死生学を基盤とするリラ・プレカリアは音楽療法とは違い、音楽によって苦難を乗り越え回復することに目的があるのではなく、回復することができない苦難を受け止め、それに寄りそう試みであることが、とてもキリスト教的だと思ったからです。これはキリスト教が『いのち』をその始まりから終わりへと見るのではなく、『終わり』から『始まる』と見ることに共鳴していると思います。そして、『回復』することができない人にとっては、リラの働きが大きな希望につながっていることを学生にも知ってもらいたいと思ったからです」。

この授業を学生自身はどう受け取ったか。感想文のいくつかを以下にご紹介します。

○ 対象とされている終末期あるいは昏睡状態にある方で反応がない方でもハープの音と歌声にとっても心を癒してもらっていると思います。なぜなら言葉を発することが難しくなってしまった人も、身体を動かさなくなった人でも、人は最後まで心をなくすことはないと思いますからです。

○ 意識がなくても音楽がわかるということを知ったので、もし身近にそういう人がいるという状況になったら、その人を癒すために、反応がなくても音楽をきかせてあげたり話しかけてあげたりしたいと思いました。

○ 音楽には不思議な力がある。またそれ以上に人の温かい心というのは、人を癒すことができる力があるのだと思う。

○ 悲しみに満ちている人に必要なのは、エンターテインメントのようなものではなく、その悲しみを受けてあげられるもの、そしてそれによってその悲しみから解放されることなのだなと気づきました。

○ 死に直面している人の前で演奏することは軽く考えてはいけないことであり、簡単なことではないと思うが、それを実行しているのは本当にすごいと思う。音楽は祈りであり、どんな状態の人にも届くのだと分かった。

○ ハープを弾くだけではなく歌も歌っているのを聴いて、一度に 2 つの祈りを行うことが出来るのだと実際に認識しました。

○ 私もいろいろな立場の人に勇気や希望、愛を届けられるような人間になりたいと思いました。

○ ハープの音色はそれ自体が愛であり、患者さんの呼吸に合わせることは敬意をはらうことであると聞いて、一人ひとりの存在がかけがえのないものだと分かってくれました。

○ 宗教に関係なく、一人ひとりに神の愛は働き、演奏を通して神様はその人に語りかけてくださっているという考えが素晴らしいなと思いました。

○ これからも多くの人々を音楽の力で助けてもらってほしいなと思いました。

最後に、この特別講義を担当したキャロル・サックは以下の感想を述べています。

「この数年、関西学院大学とルーテル学院大学で学生に 90 分間、リラ・プレカリアについて講義する機会が与えられました。講義

後に学生たちの感想文も読ませてもらいます。他の場所（病院、教会など）でプレゼンテーションをする時は、参加してくださった方々の個人的な感想を聞く機会はありませんので、学生たちのコメントをとっても興味深く読んでいます。そして、そのコメントに毎回、驚きを感じるとともに謙虚にもさせられています。新たな気持ちでパストラル・ハーブ・ミニストリーに取り組もうという気持ちが湧いてきますし、勇気をいただくのです。このミニストリーが今日の忙しい電子社会の中で必要とされていることを、何度も何度も実感させられます。

学生には、リラ・プレカリアが使用する音楽や、なぜその音楽を使用するか説明するだけではなく、この働きが私たち一人ひとりに対する神様の愛によって成り立っていることを話します。このプレゼンテーションはキリストの福音についての私の証しであり、この福音のメッセージを運ぶことこそ、リラ・プレカリアの働きなのです。

だれでも自分が神様から無条件に愛されているということを知る必要があります。これこそ、あらゆる事柄の中で最も大切なことだと私は信じています。パストラル・ハーブの働きを通して若い人たちに福音を伝えることができること、それが彼らの心に語りかけていることにとても感謝しています。神様ありがとう。」



自宅でルーテル学院大学の学生を指導するキャロルさん

日本の中の難民支援 —収容代替措置とジェラハウス—

なんみんフォーラム(FRJ)理事

(日本国際社会事業団職員) 石川美絵子

はじめに

特定非営利活動法人なんみんフォーラム(Forum for Refugees Japan-FRJ)は、日本に逃れてきた難民を支援する団体で構成されるネットワーク組織です。2004年に設立され、今年で10周年を迎えました。現在の会員団体数は15で、JELAを初めとする教会関係は6団体(全体の3分の1以上)になります。国連難民高等弁務官駐日事務所(UNHCR)とも協力関係にあります。

FRJは当初、レフュジーカウンスルジャパン(Refugee Council Japan-RCJ)という名称で、10団体で発足しました。初代の代表理事は、現在JELA事務局長をされている森川博己さんです。当時、日本で暮らす難民を支援する団体はいくつかありましたが、連携システムを構築することによって個々の団体がより良く活動でき、必要な支援をタイムリーに提供し、難民相談窓口を一本化して便宜性を高めることを目指しました。JELAは現在も運営委員としてFRJの活動の根幹を支えてくださっているほか、運営委員会やイベントでの会場提供など数々の協力をしてくださっています。

日本に逃れた難民

日本で難民申請する人の数は増え続けて

います。2013年は3,260人が申請し、今年はさらに増える見込みです。日本政府からは生活費と住居費が支給されますが、その金額は決して十分とは言えず、全員に支給されるわけではありません。難民申請者が決定を待つ間も最低限の生活が保障され、人間らしく生活するためには民間からの支援が欠かせません。特に、住居を確保することについては、難民に限らず日本人の間でもその重要性の認識が高まっています。FRJは、ネットワークを通じてさまざまな物資を調達するとともに、「住居」という大切な問題にも取り組んでいます。難民のためのシェルター運営は単なる物件の提供ではなく、多くの知識やノウハウを必要とします。ジェラハウスを利用させていただけることで、日本に逃れた難民が安心して暮らせる支援ができるのです。

「収容代替措置」の取り組み

FRJは、2012年に法務省入国管理局、日本弁護士連合会と覚書を交わし(写真右下)、難民認定手続き等の改善のために、三者間で協議・協力することになりました。その一つが「収容代替措置」と呼ばれるものです。

難民の多くはパスポートなどを持って来日しますが、やむを得ず偽造旅券で逃げてくる人や、ブローカーに騙され到着前にすべての書類を失ってしまう人もいます。そのような人たちが空港で難民申請すると、その申し立てに沿って手続きが進められますが、旅券や査証がなく、家族も身元保証人もない人は入国

することができません。通常、入国が認められない人は空港の施設に収容され、帰国を求められます。しかし、その人が本来の難民だったらどうでしょう。このような事態に対応するため、空港で難民申請を行ったものの住居がない人については入国管理局からFRJに連絡が入り、FRJが住居に必要な支援を提供することで、日本での難民認定手続きが進められるようになりました。難民認定手続きへのアクセスを保証する方法は収容に代わるものと言えるので、「収容代替措置」と呼ばれています。ここでも「住居」が鍵となり、これまでに数名がジェラハウスを利用させていただきました。一通りの家具が揃い、光熱費等の心配がいらぬため、難民を空港から直接連れて行くことができる、利便性が高いシェルターです。

「収容代替措置」はFRJの活動の重要な柱の一つです。FRJは、これからも会員団体の協力を得て関係者との協議を続け、難民支援活動を続けてまいります。この分野でのJELAのご協力は、FRJの活動に欠かせない重要なものと言えます。日頃のご協力に對しまして、この場をお借りして、お礼と感謝を申し上げます。



支援難民が日本語能力試験に合格!

JELAは、難民用シェルター(ジェラハウス)を都内に2棟保有し、日本に逃れてきた難民の方々へ住居を無償で提供しています。居住者が安心して生活できるよう家賃をとらないだけでなく、光熱費等の費用もJELAが負担しています。共通室にインターネットを自由に使えるPCを設置しており、希望すればボランティア教師による日本語クラスを無料で受けることが可能です。最近では、居住者のYさんがこの日本語クラスで勉強し、8月末に「日本語能力試験N3級」に合格するという出来事がありました。Yさんからの手紙をご紹介します。(写真右)

Yさんは今年の3月からボランティアの日本語教師NさんとDさんと共に日本語能力試験に向けた専門的な勉強を継続してこれ、その勉強努力がみのり今回見事に合格することができました。

JELAでは、皆様からのご寄付などによりジェラハウスの運営などを行っております。また日本語レッスンのボランティアを希望される方は、担当の奈良部(ならぶ)までお気軽にお問い合わせください(メール narabu@jela.or.jp、電話: 03-3447-1521)。引き続きご支援のほど、よろしくお願いいたします。

JELAからMさんは私に 賛助会 に入会 した こと について ありがとうございます。
今年も3月にJELAのMさんとNさんから 案内 がありました。
「日本語 学習 が 実行 される」そうです。
これは私にとって 朗 幸 だった。そしてN先生とD先生
に 紹介 されました。
今の 現状 は 皆 さん の 協力 と 助け の おかげ である こと は
忘れて なる こと は ない です。
私 自身 も 皆 さん と 交流 して 自分 の 感情 的 な 気持ち を 吐 け たい
です けど その 伝 え たい こと が 上手 に でき なくて 自分 中で
くる しい 下 います。
N3の 試験 を 合格 できた こと は 皆 さん の おかげ 様 です。
この 場 面 に対して 感謝 の 気持ち を 伝 えます。
積極 的 な 皆 さん と 仲 良く して いく 付 き 合 たい、これ
は N先生 と D先生 の おかげ です。
いつも ご 指導 いた だ き 感謝 しています。これ
も N2も 目 として よろしく お 願 い いた します。

Y-S

新しいJ3の皆さん、ようこそ日本へ!

アメリカ福音ルーテル教会(ELCA)から派遣された短期宣教師 3 人が 10 月 2 日に来日しました。JELA は、12 月中旬まで日本語レッスンの提供など、生活支援をしました。

ハナ・ジェンセン＝ラインキ Hannah Jensen-Reinke さん(オハイオ州出身/写真左)は学生時代からアジアに興味を持ち、大学では東南アジアの宗教を専攻していた関係で、2 年間日本語の授業を受けました。大学卒業のお祝いに、ご両親から 2 週間の日本旅行をプレゼントされたそうです。(東京滞在中の所属教会:大森教会)

ザック・コービン Zachary "Zac" Corbin さん(ウィスコンシン州出身/写真中央)は初来日ですが、学生時代から日本のアニメに興味を持ち、現職のグラフィックデザイナーになるきっかけにもなったそうです。本郷学生センターと文京カテリーナで奉仕中のジェニファー・ロバーツさんとは学生時代からの知り合いです。(同:大岡山教会)

ディーン・ホルツ Dean Hoelz さん(サウス・カロライナー州出身/写真右)は現役の ELCA 牧師で、幼少時代から日本に興味を持っていたそうです。元米海軍のチャプレンでもあったディーンさんは、岩国の米軍基地に 2010 年から 2 年間務め、2011 年には東日本大震災後の米軍の救援活動に参加しました。(同:東京池袋教会)

3 人とも来年から熊本に移動し、4 月からは九州学院とルーテル学院中学・高等学校で 2 年間英語を教える予定です。

新しい J3 の皆さんをどうぞよろしくお願いいたします。



「Amazon」でのお買い物はJELA経由で

JELAのホームページ上に「Amazon」のリンクボタンがあります。そのリンクを経由してお買い物をしていただきますとAmazonからJELAに報酬(寄付金)が得られます。

年末年始あるいは日常的に必要な物品のお買い物もぜひ、JELA経由のAmazonでお願いいたします。皆様がお

買い求めになった金額の約3%がJELAへの寄付となる仕組みです。お買い物をされた方の金銭的な負担はありませんのでご安心ください。



(2014年6月1日～9月30日)

阿波田絹子/安藤淑子/池田咲子/石原京子/石森寿幸/今村美美子/梅田久子/岡田雅代/乙守子/河合英子/京谷信代/工藤達晃/倉重みどり/小泉小枝/JELC神戸栄光教会/小菅可代/裕司・十六夜/酒井恵美子/坂根耀子/崎山たまも/佐藤たか子/志賀育代/志賀かよ子/篠崎智恵子/島宗正見/下條知加子/JELC下関教会シャローム会/杉浦りえ/鈴木陽子/関口佳子/高尾堯/竹内千晶/高田紀子/高橋昌子/高橋悠美子/田中淑子/JELC玉名教会/綱春子/中川愛弓/中野邦子/新津雅史/西垣親子/早瀬康平/日笠山吉之/フェロシップ・ディコンリー福音教団高松キリスト教会/藤原薫/古川博子/細田真理/松嶋俊介/丸山正昭/南節子/望月隆延/森田雅子/八坂由貴子/矢田絵美/山田美美子/山本孝恵/山本直子/若原奇美子/渡辺聡/世界のこども支援チャリティコンサート席上献金

ご支援ありがとうございます。匿名をご希望の場合は、ご送金の際にお知らせ下さい。

【編集余話】

ランチ後ほぼ毎日、近くの書店で新刊を立ち読みする。9月ごろ『赤毛のアン』の幸せになる言葉—人生が輝く生き方(松本侑子著、主婦と生活社)に魅かれ購入した。おもしろかったので何冊か買い求め知人に贈ったところ、感謝と共に『アン』への思い入れを打ち明ける返事がいくつも届いた。実は上記の本に巡り合うまで、私は『アン』を少女趣味と決めつけ避けてきた。偏見から解き放たれて『赤毛のアン』のページをめくってみると、豊かで味わい深い世界が広がっていた。若人向けの本も、私には今が旬ということらしい。冬に入り『アン』狂想曲も一段落。最近はおつばら、指揮者・朝比奈隆の生涯と音楽づくりに酔いしれている。高名な音楽評論家の意見をうのみにして、このマエストロをずっと無視してきたわけだが、熟年の人生にも楽しみを残してくれてありがとう、と積極的に考えることにしよう。(M)

JELAの活動にご支援を!
各種献金のご送金は下記をご利用下さい。

JELA
Japan Evangelical Lutheran Association

一般社団法人日本福音ルーテル社団
〒150-0013 東京都渋谷区恵比寿1-20-26
Tel.03-3447-1521 Fax.03-3447-1523
Email: jela@jela.or.jp
HP: http://www.jela.or.jp
郵便振替口座番号: 00140-0-669206
加入者名: 一般社団法人日本福音ルーテル社団

第二回川柳ひろば入選作品発表

応募総数295句から以下の作品が選ばれました(選者: 柏木哲夫先生)。おめでとうございます。入選者には星野富弘詩画集絵はがきセットをさしあげます。

★最優秀作

ガム買って万札崩し献金す (中村桂子)

○佳作

住職におもちゃ売り場をうたイブ (トライ明日論)

カレンダーだけはスリムな十二月 (相模秋茜)

イエスだよー赤子のわが子 役もらい (真D)

次回発表は四月です。テーマ自由。春にちなんだもの、キリスト教に関するもの大歓迎。未発表作品を随時JELAまでお送りください。皆様のご応募をお待ちしています。

◆「川柳ひろば」の投稿先:

日本福音ルーテル社団(JELA)「川柳ひろば」係

住所: 150-0013 渋谷区恵比寿1-20-26

FAX: 03-3447-1523

メール: jela@jela.or.jp